



みそのだより

令和8年1月8日
学校だより 1月号
板橋区立三園小学校
みどりの学びのエリア

合い言葉『生き生き 学びの三園小』

あけましておめでとうございます

本年もよろしく願ひいたします

校長 和田 幹夫

新しい年が始まりました。本年も、子供たちが夢と希望をもち、互いを認め尊重し合いながら、みんな笑顔で共に成長していけるよう、保護者・地域の皆様と力を合わせ、教職員一同全力を尽くしていきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

お正月は、人にとって大きな「節目」の一つです。新年を迎え、気持ちを新たにされた方も多くいらっしゃると思います。この「節目」という言葉は、竹や木の幹にある「節」に由来しています。竹は節があることにより短期間で強く高く伸びることができます。他の木も節から新しい枝を伸ばし成長していきます。人にとっても「節目」は、これまでの自分を振り返って自己を見つめ直すとともに、未来の自分を描き目標を立てる、成長の大きなポイントです。三園小の校舎裏でまっすぐに伸びる竹を見ながら、私も心が引き締まりました。この一年、私たちも子どもたちと共に、目標に向かって努力を積み重ね、木々のように大きく空へ伸びていきたいと思っています。

さて、私のお正月の楽しみの一つに元日の朝刊を読むことがあります。その中でも、特に広告を楽しみにしています。年始にあたり様々な企業や団体が、新年への思いを込めて特色あるメッセージを発信しているからです。ここで、元日の朝刊広告から心に残った言葉を一部抜粋してご紹介させていただきます。

「言葉で人と人をつなぐ。リアルに会わなくても、人とつながれる時代。相手を傷つけないように、でも伝えたいことが伝わるように。適切な言葉の使い方や語彙力が求められています。」

(出版社の広告より)

「AIの時代にことばを問う

辞書と対話し、ことばと向き合う 地に足をつけて、自分の頭で考える」(出版社の広告より)

「大切な本が、一冊あればいい。」(出版社の広告より)

「本のページをめくるたびに、私たちは対話を繰り返す。

知らないことを知ろうとする、その姿勢の中で、人と人はつながっていくのだと思う。

分断が叫ばれるような時代に、それでも互いに理解することを諦めないために。」

(出版社の広告より)

「うまくいく日も、そうじゃない日もあるだろう。でも失敗は、終わりではない。

あきらめさえしなければ、それは前進だと思う。」(製薬会社の広告より)

「意志ある時を刻めるか。」(時計会社の広告より)

「共に創る。共に生きる。(中略)ひとりではできないことも、手を取り合い、

知恵を出し合えば、社会をより豊かにする、新しい価値をつくることができる。

いまの時代にこそ、大切なことですよね。」(建設会社の広告より)

これらの広告から特に強く感じたのは「言葉」と「希望」です。様々な手段で世界中の人とつながることのできる今、そこから一歩進んで理解し合い、認め合い、尊重し合うためには、

「言葉」を通した対話の力が必要不可欠だと思います。また、変化が激しく予測困難な現代社会だからこそ、「希望」をもち、前を向いて、その一瞬一瞬を大切に生きることが大きな意味をもつと思います。

これからも、「言葉」を大切にし、子供たち一人一人に寄り添いながら、前を向いて一歩一歩歩んでいきたいと思っています。本年もよろしくお願いいたします。